SEAJ 大学プロジェクト活動
～はじまりから今後の展開～

SEAJ 運営委員長
大学プロジェクトリーダー
荒木（あらき）　浩之（ひろゆき）

SEAJ 大学プロジェクト（大学 PJ）は、学生のみなさんが半導体業界を就職先として興味を持つきっかけになるよう、業界をアピールするだけでなく、最先端技術の魅力を伝える仕組みづくりとその対象拡大、安定した活動ができることを目指したチームです。今回は大学 PJ ができるまで、現在の活動、今後の展開という構成で説明します。

大学 PJ ができるまで

このPJの目的「業界をアピール」を達成するために作ったコンセプトは、「会いに行ける場」を作ることです。学生のみなさんが普段いる場所は大学であり、学会です。会いに行くためのコンテンツを揃え、訪問し、魅力を伝える。シンプルな方法ですが、これを作り上げるまでに、アイデアを出し、人と会い、そして共感を得る、という繰り返しを行いました。その過程には各種組織とその人々が深く関係しており、話は2005年まで遡ります。

2005年12月、SEMICON Japan の会場近くのホテルで当時の大日本スクリーン製造（現 SCREEN ホールディングス）が技術セミナーを開催、青木秀充大阪大学准教授（当時）をゲストスピーカーとしてお招きし盛況でした。直後の反省会で、応用物理学会後に技術者が集まってディスカッションできる場ができないかとの相談があり、2006年3月、応用物理学会開催時に洗浄関係技術者の懇親会「カサロス」をスタートさせました。その後「暗黙知の共鳴場」を作ることをコンセプトとし、2007年8月応用物理学会の正式な組織「界面ナノ電子化学研究会」（当時 NICE、現 INE）が発足しました。この「思い」を持った人々が後々大学 PJ に関係します。

INE は企業メンバーが9割の研究会のため学術連携を模索していました。また若手技術者の育成に注力しており、若手ポスター展を毎年開催していました。その中、応用物理学会内に産学協働研究会（現インダストリアルチャプター産学協働グループ）があり、産学活動促進の展示エリアを出していることを知りました。2015年からは INE もブースを出展、産学をつなげる活動を開始しました。その委員長の堂免恵氏らと2017年3月に次の応用物理学会シンポジウムで就活生向けのイベント開催を SEAJ と共同企画・提案しました。

一方、大学でのイベントを開催するまでにも、重要な体験がありました。2013,14年、立命館大学では「企業の技術ビジョンを知る」～半導体製造装置メーカー編～、が開催され、これは装置メーカー4社の先輩技術者の声を聞くというものでした。人事担当者が説明するのではなく、技術者が日々どのようなことを考え課題に挑戦しているかを語る場であったのです。ここでの講演経験は後に大学 PJ に活かされることに他なりません。当時は大学キャリアセンター主催で、招待される形で講演していましたが、ここ数年は同様のイベントがないことを確認し、SEAJ としてコンテンツを準備、場所を借りて開催することを提案したところ、ご厚意により決定しました。なぜ大学・学会 PJ の最初の大学開催が立命館大学なのか？と聞かれれば、これが理由です。

このような学会、大学での活動、経験、人脈が後に大学 PJ 活動に大きく影響を与えることになります。

現在の活動

（1）応用物理学会シンポジウム

2018年3月応用物理学会特別シンポジウム（早稲田大学）において、初めて「就活生必見！」シリーズをスタートし

応用物理学会シンポジウムポスター

ました。SEAJ から6社、INE から2社の技術者がスピーカーとなり、若手技術者が自らの経験を語りました。各社10分のプレゼンテーション、質疑応答なし、というスタイルにより各社がアピールするという、これまでにないシンポジウムであったこともあり300名入る講義室は満席、立ち見も出ました。2019年3月は東京工業大学で開催し、SEAJ ４社、INE ２社から登壇、200名の部屋は満席となりました。2020年3月上智大学での開催も準備していましたが、コロナ禍の影響で中止となりました。企画は2020年9月、初の WEB 開催となったシンポジウム「就活生必見！！　車は半導体で出来ている！」に引き継がれ、参加者延べ約600名、ピーク時で約400名という注目を集める場となりました。

（2）大学

2018年12月立命館大学びわこくさつキャンパスにおいて「業界研究 若手技術者が経験を語る2018」を開催、事前にパンフレットを作成し会員企業の概要、講演者のメッセージ、求める専攻を記載しています。講演は応用物理学会でのスタイルを踏襲し講演者全員が参加者の前でプレゼンテーションするようにしました。しかし、この方法は参加全社が均等に紹介できるものの、特定の企業の話を長く聞きたい学生のニーズを捉えることができないことと発表時間管理が難しいことから、参加各社が分かれるブース方式、ポスター方式についても検討を進めました。

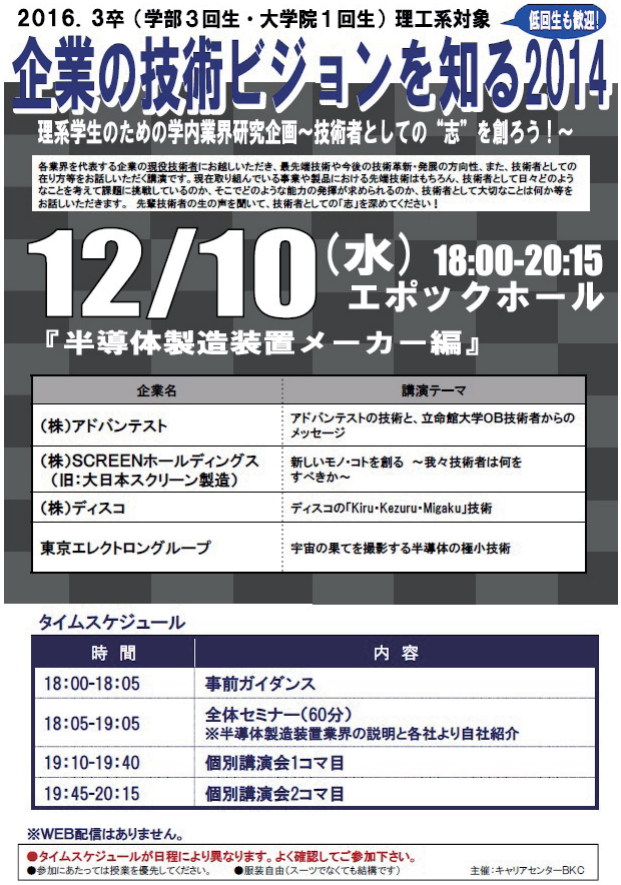
また会員の多様なニーズに応えるため複数の大学で実施できないか調査したところ、2017年に日本初のデータサイエンス学部を創設した滋賀大学が注目されており、既に複数の SEAJ 会員企業も連携協定を結んでいることから、初の卒業生の就職活動に間に合うよう「業界研究 若手社員が経験を語る2019」の開催を提案しました。その結果、2019年11月、滋賀大学にてショートプレゼンテーション＋ポスターセッションというスタイルで実施することができ、この活動は学内でも注目され大学のホームページに掲載されました。

2019年12月には立命館大学にて2回目の業界研究イベントを開催、ショートプレゼンテーション＋ブースプレゼンテーション方式を採用しました。2020年10月はコロナ禍のためオンラインにより立命館大学として3回目の業界研究イベントを開催しました。複数のオンライン会議室を活用したブースプレゼン方式となりましたが、オンライン授業に慣れた学生のみなさんの動きはスムースで大きなトラブルなく終えることができました。11月には滋賀大学で2回目を開催することができました。

応用物理学会シンポジウム オンラインベース風景

大学プロジェクトイベント開催履歴

	2017-18	2018-19	2019-20	2020-21
応物学会	春 早稲田大	春 東工大	春 上智大 ※開催中止	秋 WEB 春 WEB
大学		12/20 立命館大	11/14 滋賀大 12/3 立命館大	10/20 立命館大 11/26 滋賀大



2016. 3卒（学部３回生・大学院１回生）理工系対象　低回生も歓迎!

企業の技術ビジョンを知る2014

理系学生のための学内業界研究企画～技術者としての“志”を創ろう！～

各業界を代表する企業の現役技術者にお越しいただき、最先端技術や今後の技術革新・発展の方向性、また、技術者としての在り方等をお話しいただく講演です。現在取り組んでいる事業や製品における先端技術はもちろん、技術者として日々どのようなことを考えて課題に挑戦しているのか、そこでどのような能力の発揮が求められるのか、技術者として大切なことは何か等をお話しいただきます。 先輩技術者の生の声を聞いて、技術者としての「志」を深めてください！

12/10（水）18:00-20:15 エポックホール

『半導体製造装置メーカー編』

企業名	講演テーマ
(株)アドバンテスト	アドバンテストの技術と、立命館大学OB技術者からのメッセージ
(株)SCREENホールディングス（IB:大日本スクリーン製造）	新しいモノ・コトを創る ～我々技術者は何をすべきか～
(株)ディスコ	ディスコの「Kiru・Kezuru・Migaku」技術
東京エレクトロングループ	宇宙の果てを撮影する半導体の極小技術

タイムスケジュール

時 間	内 容
18:00-18:05	事前ガイダンス
18:05-19:05	全体セミナー(60分) ※半導体製造装置業界の説明と各社より自社紹介
19:10-19:40	個別講演会1コマ目
19:45-20:15	個別講演会2コマ目

※WEB配信はありません。

●タイムスケジュールが日程により異なります。よく確認してご参加下さい。
●参加にあたっては授業を優先してください。　●服装自由(スーツでなくても結構です)　主催：キャリアセンターBKC

立命館大学主催「企業の技術ビジョンを知る」

2019年11月25日

11月14日（木）、彦根キャンパスにて、本学就職支援室と一般社団法人日本半導体製造装置協会（Semiconductor Equipment Association of Japan、以下「SEAJ」）が連携し、「若手社員が経験を語る2019～半導体関連メーカー特集～」と題した業界研究会を開催しました。

経済学部とデータサイエンス学部の3年生を対象としたプレゼンテーションでは、SEAJに加盟する8社（HORIBAグループ、株式会社フジキン、株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ、ウシオ電機株式会社、キヤノンマシナリー株式会社、株式会社日立ハイテクノロジーズ、東京エレクトロン株式会社、株式会社荏原製作所）から派遣された若手社員が、自社の紹介や自身の職務上の経験談などを披露し、集まった学生たちは熱心に聴き入っていました。

続いて大学会館2階の多目的ホールで催した懇談会では、学生たちが福利厚生や処遇面、海外赴任の可能性などについても積極的に尋ねていました。この問いに企業担当者は、笑いを交えて答えるなど、終始和やかな雰囲気で閉会しました。

企業担当者の説明を聴き入る学生たち

滋賀大学ホームページ「若手社員が経験を語る2019」活動掲載

今後の展開

大学 PJ のスタイルが安定してできるようになってきたことから、今シーズンは関東での開催も予定しています。しかし、現状に満足することなく常に課題を挙げ、改善、改良を加えることも意識しています。特に以下を注視しています。

1) 参加会員企業の拡大
現在参加企業が限られているため、広く募集してより多くの会員が参加できる方法のアイデア出しを行っています。

2) 活動アピール
これまでは理事会、運営委員会での紹介に留まっています。今回のジャーナル掲載は良い機会になりました。

3) ブースプレゼン参加者のバランス
ショートプレゼン＋ブースプレゼンのスタイルは、ブースプレゼンの参加人数にばらつきが発生します。制限を加えることなく均一化の方法を検討しています。

4) 会員企業への大学情報インプット
開催の準備過程で大学からの情報を得ることができます。この情報の会員へのフィードバックを考えています。

5) コロナ対応（オンラインスキル）
大学ではリモートツールとして Zoom が主に使われています。開催前に講演者のリハーサルを行い接続・動作確認を行っていまが、今後新機能による効果的なプレゼンを実施できるよう学会等の動きもウォッチしていきたいと思います。

大学 PJ は会員企業の若手社員の交流の場となることも目指しており、応用物理学会シンポジウムでは終了後に学生も含めたランチ懇親会、大学イベントの後には講演者懇親会を催し、同世代の技術者が交流しています。また講演者は SEAJ ジャーナルへ投稿したり、社内で希望の部署に異動したりといったその後の活躍が聞こえてきます。このような講演経験者が集まる場、さらに人事関係者の交流の場を設定してもよいかもしれません。

業界をアピールするイベントを開催するという意味では、本 PJ はその役割を果たせるところまで、ようやく形になったと感じています。今後は技術者の採用、育成、交流を含めた総合的な業務を組織として活動できる体制を作ることにより、更なる発展ができるのではないかと考えています。

謝辞

この PJ の活動に協力・支援してくださった、講演者の皆様、立命館大学キャリアセンター、滋賀大学データサイエンス学部・就職支援室、界面ナノ電子化学研究会、インダストリアルチャプター産学協働グループ、応用物理学会事務局、会員人事担当の皆様、本 PJ メンバーの皆様、に御礼申し上げます。

参考文献

山口栄一（2006）「イノベーション破壊と共鳴」NTT 出版
立命館大学キャリアセンター（2014）「企業の技術ビジョンを知る」～半導体製造装置メーカー編～
荒木浩之（2015）第76回応用物理学会秋季学術講演会 13p-1B-1 オープニング；界面ナノ電子化学研究会の意義